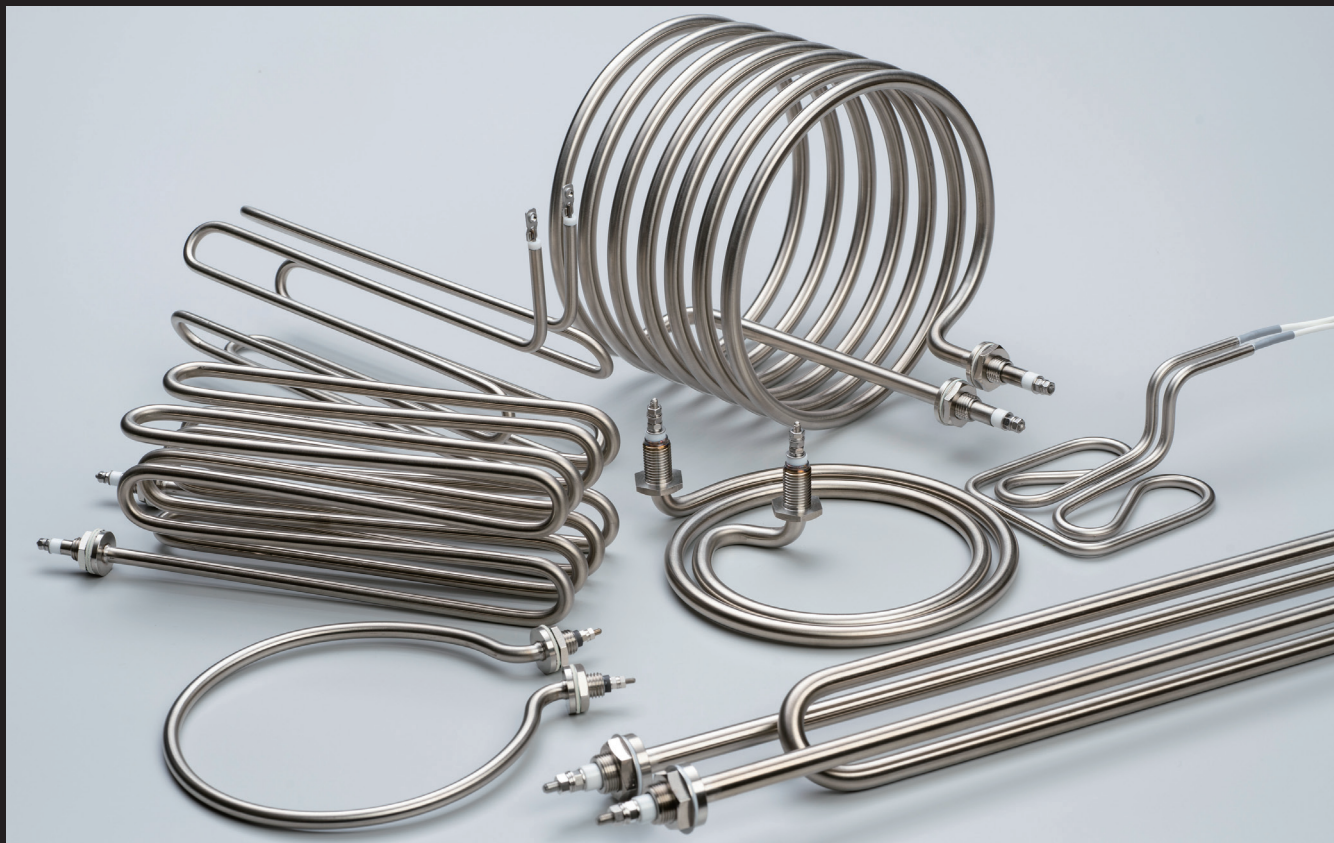


シーズヒーター

スパイラル状の発熱体を金属パイプの中央に挿入し、
熱伝導の良い絶縁物(MgO)で高密度に満たしたヒーターです。

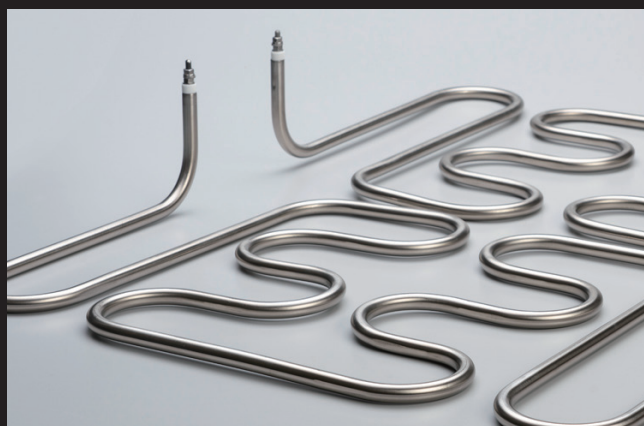


特 徴

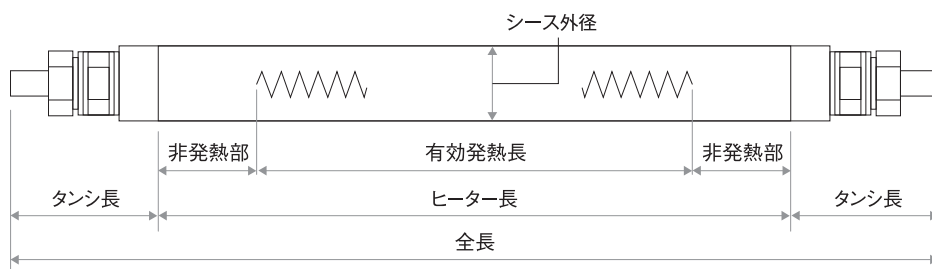
- 電氣的に完全に絶縁されており、直接加熱が可能で安全。
- 振動、衝撃に強く、発熱線が酸化されないため長寿命。
- 熱伝達に優れ、耐熱性のパイプ材質にすれば、高温の場所にも使用可能。
- 曲げ加工が容易で、様々な形状に製作が可能。
※最小曲げ半径 $R=2.5D$
- 量産性に優れ、低価格。
熱電対内装タイプは温度センサーにTC(熱電対)を使用しております。

用 途

- 空気加熱、水・油加熱、厨房機器、理化学機器、液晶・半導体製造装置、乾燥炉、温水器 など



標準仕様



シース材質	シース外径(mm)		シース長(mm)	
	標準	製作可能	標準	製作可能
SUS304	Φ8、Φ10、Φ12	Φ6.5、Φ9、Φ14、Φ16	200~6,000	~12,000 (Φ8の場合)
SUS316L				
NCF800相当		Φ6.5、Φ9、Φ14		

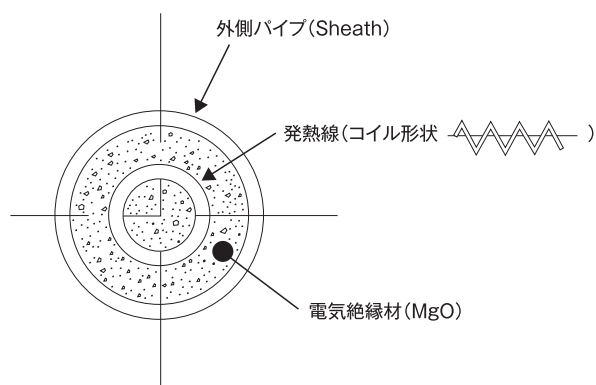
※シース材質は、NCF600相当、チタン、アルミでも製作可能です。製作できるシース外径、シース長についてはご相談ください。

最小曲げR

シース材質 \ シース外径	Φ8	Φ10	Φ12
SUS304	R13	R13	R15.5
SUS316L	R13	R13	R15.5
NCF800相当	R18	R25	R30



シースヒーターの構造



シースヒーターとは、金属パイプの中に発熱線と絶縁材が入ったヒーターを指します。発熱線がむき出しのヒーターを一般に“裸線ヒーター”と言いますが、それに比べ、シースヒーターは外側の金属パイプが鞘(Sheath)の役割を果たすためこのように呼ばれます。発熱線が絶縁材と金属パイプの中にあるため感電の心配がなく、熱を必要とする様々な分野で使用されています。

シースヒーターの応用例

■熱電対内装シースヒーター

シースヒーターのシース内に熱電対を内装したヒーターです。熱電対を制御器につなげれば、ヒーター温度を測定・制御できます。寸法仕様などは別途お問い合わせください。

